

忘れられたパンデミック

札幌市医師会
勤医協もみじ台内科診療所

佐久間 哲

新型インフルエンザが流行した頃に「史上最悪のインフルエンザ」を読んだ。スペイン風邪のことである。酷いと思っていた状況が、100年経った今、コロナ禍で繰り返されている。当時と社会的背景や科学・医学技術は大きく変わっているが、極めて似た現象が見られる。現在の状況は決して未知や想定外ではない。学ばないだけなのだ。

1. スペイン風邪と対比して

スペイン風邪の当時、アメリカでは体育館など公共施設は棺桶で一杯になり、火葬場は棺桶が10段ほどの山積みとなり、賄賂を使わないと火葬まで1ヵ月待たされた。現在のコロナ禍でも死者の多い武漢や欧米だけでなく、各国で同様の光景が見られる。

スペイン風邪は初期には軽症者が多くあまり危険視されなかったが、第1次世界大戦末期には変異により凶悪化し、前線での感染者続出による大幅な戦力ダウンが終戦の隠れた一因とされている。その帰還兵が各国に戻って感染者を爆発的に増やした。あまりに世界的、同時、多発的に拡大したために記録や報道が追いつけなかったが、数少ない詳細な報告がある。

ヨーロッパ発アメリカ行き1,600名の戦争帰還兵の乗った蒸気船内で多数の感染が広がった。下等兵が多い低層階では、急激に増える重症者や死者に囲まれ、地獄の様な阿鼻叫喚の様相を呈し、毎日数十名の遺体が海に棄てられた。ボストンに着いた1ヵ月後には600名程度しか生存者がいなかった。

近年、中国では春節前から数億人が国内外に旅行するが、日本にも100万人以上訪れている。コロナ感染者を乗せたダイヤモンドプリンセス号も同様の経過を辿り、換気の悪い船底部の乗客の感染者数が多く、3密の社交界もあってか、同船は歴史に名を刻んだ。既にパンデミックの懸念が大きかったにも関わらず、当時の政府・厚労省トップは患者が数名程度の認識で、前時代的な対応であった。また、新型インフルエンザ流行時に中韓で重要な役割を果たしたPCR検査への備えは脆弱だった。

スペイン風邪の爆発的流行期には、各国で緊急対策会議を開く前に感染が蔓延し、まともな対策すら立てられなかった。情報よりも感染者が先に着いたのである。

コロナ禍1年を経て、未だ適切な方針や関連法案すら決められない日本の現状は当時と極似しているが、ネット環境の膨大な情報量や科学技術の進歩を考えると、それを十分に活用できない現在の政治の

貧困＝劣化があまりにも明瞭に浮かび上がる。

非科学的、非論理的な判断力は、100年に及ぶ人間の英知を無に帰している。

コロナ禍でアメリカでは既に40万人以上が亡くなり、スペイン風邪の死者46万人に肉薄している。これをコロナとの戦いとすれば、中途半端な戦術の局地戦では負けている。

2. ガダルカナルの失敗

中国以外で初期に感染制御できたのは台湾、ニュージーランドなど少数で、地政的な条件を生かし、厳格なロックダウンで市中感染を防ぎ、徹底した検査の実施と接触者追跡によって2次感染に対応し短期戦を終わらせた。オーストラリアは世界で唯一スペイン風邪第1、2波の影響を被らなかった経験を生かし、1,500km離れたクリスマス島への武漢からの帰国者の隔離が有効であった。昨年3月から現在まで毎月数万～10数万円を支給し、生活を保障し経済を動かし続け、封じ込めに成功している。

日本はどうか。医療支援や補給の要請を躊躇する自治体は論外であるが、先見の明が無い行政・官僚機構はかつてのガダルカナルの失敗と揶揄される失敗を繰り返している。

振り返るといくつか転換点はあったように思う。

誰も使わないアベノマスク代金480億円の1割があれば、全都道府県に国産PCR自動測定機が500台配置され、毎日12万人分の処理が2時間で終了する。検査待ちで亡くなる事態はおそらく避けられた。保健所も本来の役割を果たせただろう。

GO TOが無ければ、と医療関係者は誰でも思う。旅行と飲食だけが経済ではない。マスクや人工鼻、ワクチン用特殊注射器等の医療用品の大部分を輸入に依存する事態を打開し、医療関連産業の育成、転換を誘導すれば、安全・安心と雇用・経済も今とは格段に違っていただろう。1,000億円を超える各種交付金、GO TO事務手数料のほんの僅かですべてできたことだ。

医療崩壊は「ガダルカナルの失敗」の最終段階なのだ。明確な目標と有効かつ大胆な政策が求められる。

3. 財政で覚悟を示すべき

患者の受診控えにより、昨年の保険医療費は4月～9月の累計で前年比1.2兆円減となっていて、診療所に限ると10.7%減、平均額で約1,000万円減である。当年度の医療費想定からは半年で1.9兆円下回る(余る)。今年4月から半年間、外来1回5点(月6万円)、入院1日10点の加算があるが、要する国費は300億円で、薬価改定の半返しに過ぎない。遅れている医療関係交付金を早急に交付し、前年度医療費との差額を還付する方法を考え、政治に対する信頼を取り戻すのが最優先だろう。

コロナ重症者1ベッド1,500万円出すという前に、先のPCR自動測定機をオマケにするくらいの度量と覚悟を示すべきではないか。